

クラス開設4年目ようやく留学実施

グローバルクラスでは1年次と2年次の3学期にそれぞれ約1か月、計2か月の留学をおこないます。研修先は、本校が提携しているカリフォルニア大学デイビス校(UC Davis)です。UC Davisの国際教育センター監修のもと、本校にあった独自のプログラムを作成していただきます。10代での最初の留学は、色々な経験ができたということと終わってしまいがちです。2度目がないと、そこでわかったこと—いかに英語ができないか、自分は一体何者かなど—をどう生かし、国際的な場面でどう対処するかを試すことがないまま卒業することになります。2年次は1度目の留学で経験したことから、次に向けて何をしていけばよいかを見つける期間となります。そして2年次の春の留学において、やり残したこと、挑戦したいことを実現していきます。2020年度はコロナ禍のためオンラインでSDGsなどをテーマとしたプログラムを受講しました。2021年度にようやく、実際にアメリカに渡航することができました。UC Davisでは、実践的な英語力を訓練します。プレゼンテーションなど、発表が中心になります。課題をこなすのは大変ですが、それだけ力がつきます。留学中はホームステイです。約1か月、ホストファミリーと過ごす中で実践的な英語力の向上はもちろん、異文化に対する理解を深めます。クリスチャンのホストファミリーであれば日曜日に一緒に教会を訪れます。ベジタリアンのホストファミリーであれば普段と異なる食生活を体験できます。学校で学ぶ知識ももちろん大切ですが、このように肌で異文化に触れることは、若い人にとって重要な経験になります。また、現地の高校生と「JAPAN DAY」を協力して開催し、日本文化を通じた交流も行いました。

留学は楽しいことばかりではなく、文化の違いに戸惑うこともあるでしょう。安全圏(ComfortZone)を離れることは、不快を伴います。しかし、そのためにわざわざ遠く離れた外国へ行くのです。そのような経験と向き合い、留学から帰ってきた子どもたちの顔つきはどこか一回り大人になったようにみえます。



舟木 祐人 教諭 社会科
パタビア・グローバルクラス高3担任
茶道部顧問

自分のしたいことがのびのびとできる、それがグローバルクラスです。韓国語や絵のデザイン、宗教に興味がある人、海外大学に進学したい人など、様々な進路を考えている人がいます。自分の夢をちゃんと持ち、それに向かって具体的な目標を定められるような環境が、グローバルクラスにはあると感じました。

また、日本の文化を体験する「日本文化」という授業があります。外国人の方と話す上で相手の文化ばかり吸収するのではなく、自ら日本の文化を発信するということはとても大事で、実際、留学に行った際に相手と話す上でものすごく役に立ちました。留学するにあたっては、英語を話すコツをネイティブの先生が教えてくれたので自信を持って交流することができました。僕達が行ったDAVIS(デイビス)という市は、のどかで安全な街でした。街の人達はとても優しく挨拶をしてくれたり、若者は初対面なのにバスケットをしよう!と誘ってくるなど、文化の違いに何度も驚かされました。授業は毎日お昼すぎまでで、ネイティブの先生が教えてくださり、日本では受けられないような生徒主体の授業が展開されました。外国語で自分の意見を発信していく難しさを体感しつつも、先生やアシスタントの大学生の皆さんのおかげで成長をすることができました。また現地では友達をたくさん作ることができ、とにご飯を食べに行ったり、毎日のように遊んだりしているうちに自分の英語力がだんだん上がっていることが実感できました。また、短期留学なので学校の勉強には支障が出ません。むしろ、留学に行く前と行ったあとでは英語力がすごく変化していたし、自分の中で英語を勉強するモチベーションに繋がったことが、何よりも自分へのお土産となりました。



留学中のなにげない生活が
英語力の向上と、世界中の人への
想いへと繋がりました。

藤田 佳吾
パタビア・グローバルクラス高3 GSI部
(京都・大住中)

今年初めて卒業生を出しました

■ メッセージ

英語を学んだことが将来の夢につながった。



同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科
増田 温 2022年3月 パタビア・グローバルクラス卒 卓球部 (大谷中・内部進学)

中学で初めて英語を学び、日本語以外の言語で読み書きできることに感動しました。さらに、オーラルコミュニケーションの授業を通して、もっと英語を使った学びを深めたいと思うようになり、新設のグローバルクラスに進学することを決意しました。英語の授業では英語で書かれた文章を読み、ネイティブの先生と会話することで英語力が向上したのはもちろん、国をまたいでコミュニケーションすることの楽しさを強く実感しました。中学生の時はあまり意識することがなかった「世界」についても興味を持つようになり、さまざまな国際問題についてクラスで話し合い、模擬国連活動を通して客観的に考える力、伝える力が身についたと思います。高校1年のフィールドワークでは、フェアトレード商品を扱っているお店のインタビューを経験し、児童労働について関心を持ち始めました。将来は発展途上国での貿易にフォーカスした活動をしたいと思っています。そのために必要なスキルをさらに磨ける大学が私の目標となり担任の先生に支えられながら合格することができました。

グローバル生の3年間が私の大切な宝物。

グローバルクラスの大きな魅力は2回の留学だと思います。しかし一期生の私の学年は、新型コロナウイルスの影響で一度も留学に行けませんでした。とても残念でしたが、それでもたくさんの良い経験ができました。毎日All Englishの授業を受けたことで英語力が伸び、英検準1級に合格できました。生の英語に触れたおかげで、特にリスニング力がアップしました。また、中学生のころまでは人前で話すことが本当に苦手だったのですが、国際関係ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が多く、人前でも自信を持って話せるようになりました。日本文化の授業での取り組みは、どれも初めての体験で貴重な経験ばかりでした。特に長期間取り組んだ祇園祭を通して、歴史などを学ぶだけでなく、実際にお囃子を聴いたり、売り子を体験したりすることもできました。進路選択のときにはこうした経験がとても役に立ち、これからの人生にも大きく関わってくると思います。グローバルクラス生として過ごした3年間は私の宝物です。



関西学院大学 国際学部 国際学科
松田 叶葉 2022年3月 パタビア・グローバルクラス卒 (滋賀・高穂中)

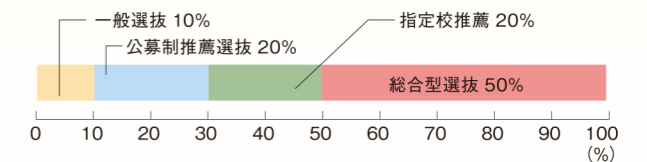
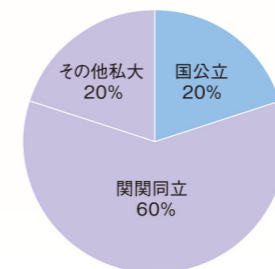


グローバルクラスの担任として「異なる草木が咲き乱れる花園」のようなクラスを育てたいと思っています。型に当てはめた教育は効率が良いのかもしれませんが、世界的な視点に立つと多様性が当たり前です。今こそ、優しく話し合いの姿勢で、世界が協力して非常事態に立ち向かわなければいけないのに、同じクラスの人とすら話せない、廊下で毎日すれ違う人と「気まずくて」話そうとしない人もいます。今求められているのは、人々の間の壁を打ち破って、個性を發揮しながら分け隔てなく仲間と関係が作れる環境です。そのように願うこそ、グローバルクラスに向いていると思います。

露伴 クルトツティ 教諭 国語科 パタビア・グローバルクラス高1担任 GSI部顧問



■ 進路実績/卒業生10名



国立大学	人数
静岡文化芸術大学	1
大阪教育大学	1
計2大学	2名

私立大学	人数
関西学院大学	2
京都芸術大学	1
京都女子大学	1
同志社大学	2
立命館大学	2
計5大学	8名